

はままつじょうはくつつうしん
浜松城発掘通信

Nº7

浜松市文化財課 2018年11月5日

天守曲輪南東部に隅櫓（すみやぐら）があったことが確認できました。

浜松城の天守曲輪の南東において、櫓の基礎構造が確認できました。近接して出土している大量の屋根瓦も櫓に葺かれていたものとみられます。新たに存在が判明した建物は、浜松城が豊臣政権下にあった2代城主、堀尾吉晴の時代（1590～1600年）のものと考えられます。



瓦の出土状況 完全な形の瓦が含まれます。再利用できる瓦を選ばず、急いで造成していたことが考えられます。

天守曲輪南東部にあった隅櫓の痕跡を紹介します。



天守曲輪南西隅の石垣

南東隅の石垣には出隅とよばれる突出部があり、かつて上部に建物があったことをうかがわせます。



櫓の基礎構造

櫓の北西部分。表面が平たい礎石が並び、内部には地固めのための石が詰められています。

現地説明会を開催いたしました。

11月3日（土）、4日（日）に開催した現地説明会では、870名の見学者が来訪されました。櫓の屋根に葺かれていたとみられる瓦も数多く展示し、注目を集めました。



現地説明会のようす

建物の基礎や、石垣、瓦が出土した状態を、熱心にご覧いただきました。



櫓跡の近辺から出土した鯨瓦（しゃちかわら）

出土品の中でも注目を集めたのが、建物の上端を飾る鯨瓦。製作技法から堀尾氏が城期のもと考えられます。

浜松城の発掘調査は平日の午前8時30分から午後4時までの作業時間内において、安全柵の外側から作業状況を見学いただけます。調査は11月下旬まで実施しますが、調査終了後は順次、埋め戻します。